

Spot ▶ 日本の伝統技術、手仕事から新しい
コスチュームジェリーを創造

objewelry exhibition VI

9.14~9.20 ポーラザビューティー銀座1F

飯田水引プロジェクト × 加藤尚子



▲加藤尚子さんと飯田水引の職人のみなさん

地域の優れた素材を発掘し、職人たちの
技に託して新しいコスチュームジュエ
リーを誕生させる「Objewelry
(オブジェリー)展」が開催された。

「Objewelry (オブジェリー)」
とは、デザイナー・クリエティブディ
レクター加藤尚子が創り出すオブジェと
ジュエリーの融合。その発表の場を提供
してくれているのが、ポーラザビューテ
ィー銀座1F。

伝統産業や職人の技術を未来につなげ
ていこうと努力している人たちとの出会
いから、加藤さんならではの商品企画が
始まった。これまで加藤さんがコラボし

たものは、高岡銅器、因州和紙、中井窯、
弓浜緋、有田焼、飛騨春慶、一位一刀彫、
徳島藍染めなど。

「Objewelry展」6回目の今
回は、長野県飯田市、水引とのコラボだ
った。飯田市が全国の水引の約70%を生
産していることは贈答の仕事に携わる人
には知られているが、贈答機会の縮小や
簡略化で、水引の需要が減少の一途を辿
っていることも周知の事実。

その水引を、まったく新しい商品に生
まれ変わらせた加藤さんのセンスと功労
には、改めて感服する。

初日14日に開かれたレセプションで、
加藤さんは水引に込められた意味を語った。

「解くために結びリボンとは違い、
水引は決して解かれるものではありません。
せん。」

水引には結(むすび)の意味があり
ます。人と人を結ぶ、仕事を結ぶ、現
在から未来へ結ぶ。じつは昨年コラボ
した徳島の藍染めで飯田の水引を染め
ていただき、徳島と飯田を結ぶことに
なりました。

続いて挨拶した飯田市の牧野光明市
長、商工会議所の柴田忠昭会頭は、加
藤さんへの感謝と賞賛の言葉を何度も
繰り返していた。

そしてこの展示会でいちばん驚かれ
たのは「難しい注文」にこたえて製品に
仕上げた「飯田水引プロジェクト」の
職人たちだろう。

美しく展示された自作の商品を見て、
感嘆の声をあげる来場者たち。その場
で買い求めていくお客様。製品作りの
ヒントとなる生の声を聞くこともでき
たという。

水引といえば熨斗袋についているも
の、というこれまでの概念から、身に
つける水引という概念が生まれ、商品
化されて、需要を喚起し、生産量が増え
て行く。そんな流れができることに、期
待したい。

地方には、まだまだ知られていない
素晴らしい素材と技術があり、それを
発掘し製品化し販売するまでには、実
に多くの人の力が必要だ。なかでも無
くてはならないのは、素材の発掘から
デザイン企画、製造のための交渉、露
出計画、販路開拓などを一貫して行え
るクリエイティブディレクターの存在
である。



▲水引から創られたObjewelry